

超高齢社会における 保険薬局を活用した 骨粗鬆症治療の医薬連携

荒井 國三 氏

金沢大学医薬保健研究域薬学系 教授



要旨

骨粗鬆症は、自覚症状に乏しい病気で骨折等の基礎疾患となることから、早期に骨量減少を発見し、骨粗鬆症の予防を行うことが重要である。金沢大学附属病院の山本憲男らは患者の骨折リスクを評価ツールのFRAX (Fracture Risk Assessment Tool) について「5の法則」を提唱している。本プログラムにおいて、石川県内の保険薬局の外来患者のうち50歳以上の女性の患者に対してFRAXの「5の法則」を用いて骨粗鬆症スクリーニングを行い、骨粗鬆症が疑われる患者に対して、整形外科受診勧奨を行い、精密検査の結果、薬物治療が必要な患者に対して医師と薬剤師が連携して薬物治療を実施する。金沢市薬剤師会および石川県臨床整形外科医会の協力のもと、2015年11月現在、石川県内の26薬局および20診療所・病院が本プログラムに参加している。高齢化が進む今後、地域の人の病歴や日常生活を知っているかかりつけの薬局が、病気の予防や早期発見、健康維持に関わることは今後の保険薬局の機能として重要である。保険薬局でFRAXを用いたスクリーニングを実施することで今まで骨粗鬆症検診していない市民に検診の機会が提供できる。また、薬物治療が導入された患者に対して医師と薬剤師が連携することにより骨粗鬆症のプライマリーケアや薬物治療の継続に貢献できる。

1.初めに

骨粗鬆症は自覚症状が乏しいため治療していない患者が非常に多いのが問題である。骨粗鬆症の治療目的は骨折予防であり、骨折リスクを評価し骨粗鬆症の治療を開始することが必要である。患者の骨折リスクを評価するために使用する骨粗鬆症スクリーニングツールとしてWHOが開発したFRAXがある。金沢大学附属病院整形外科の山本らは、金沢市の一般地域住民を対象とした骨粗鬆症検診のYAM値とFRAX値と後ろ向き調査から、骨粗鬆症検診あるいはスクリーニングなどの実際の臨床使用に有用なFRAX値(5の法則)を提案している(山本憲男ら、オステオポロシス・ジャパン21:753,2013)。現在の金沢市では女性を対象として骨粗鬆症検診が実施されているが、検診率は25%程度で、すべての住民が受診しているわけではない。薬局で骨粗鬆症スクリーニングを実施すること、また薬物治療が導入された患者の服薬をサポートする医師と連携システムを構築することによ

り、骨粗鬆症のプライマリーケアに貢献できるものと考えた。

2.骨粗鬆症の医薬連携プログラムの構築

金沢市の保険薬局でFRAXによる骨粗鬆症のスクリーニングを行い、骨粗鬆症性骨折リスクの高い骨粗鬆症の病識のない患者に対して、精密検査のための受診勧奨を行う地域連携システムを構築した。

(1)実施プロトコール

保険薬局に来局した患者に対して、FRAXを用い骨粗鬆症のスクリーニングを実施し、骨粗鬆症性骨折リスク群に対して精密検査の受診勧奨を行う。医師は精密検査を実施し、薬物治療を開始する場合、医師と薬剤師は患者情報の共有および意見交換を実施する。

プログラム概要



(2) 骨粗鬆症治療医薬連携プラットフォーム

金沢市薬剤師会および石川県臨床整形外科医会の協力のもと、2015年11月現在、石川県内の26薬局および20診療所・病院が本プログラムに参加している。本活動について地元地方新聞(北國新聞朝刊平成27年6月5日)および薬業界紙(薬事日報平成27年7月15日)に紹介された。また、研究参加者相互の情報交換や市民への本活動の広報のために、本助成金を使用し本研究のホームページ

(<http://hone.w3.kanazawa-u.ac.jp/index.html>) を公開した。

地域プラットフォーム



3. 啓発活動

(1) 市民講演会の開催

申請者は助成金を利用し日本骨粗鬆症学会認定の骨粗鬆症リエゾンマネージャー資格を取得し、市民に対する啓発活動の一環として2回の市民講演会「骨粗鬆症 あなたの骨は健康ですか?」を実施した。(平成27年11月23日、平成28年4月16日)



(2) 薬剤師に対する啓発活動

金沢市の薬剤師対象に講演会「骨粗鬆症とFRAX：骨折リスクは計算できる」(平成28年3月24日)を開催した。

(3) 薬局における患者啓発資材

患者への啓発資料として、FRAX測定卓上のぼり旗作成、および骨粗鬆症DVD「NHK健康番組100選【きょうの健康】寝たきりを防ぐ 骨粗しょう症対策」の購入を助成金で行い参加医療機関へ配布した。



4. 進捗状況

本プログラムにより保険薬局でFRAX値を測定した患者数は102名、研究参加患者数9名、薬物治療で医薬連携している患者2名(平成28年1月現在)である。本取り組みについて、第48回北陸信越薬剤師学術大会(長野)および第25回日本医療薬学会年会(横浜)で本研究について発表した。

5. 今後の課題と展開

今後、参加薬局数および研究参加する患者数を増やす取り組み、さらに市民への骨粗鬆症治療に関する啓蒙活動を実施する。「骨粗鬆症の医薬連携の有効性評価とYAM値とFRAX値との関連の関係について前向き研究」について研究終了後に成果をHPや学会誌などで発信する。現在、福岡市の薬剤師臨床シミュレーション研究会が本プログラムを元にパイロット研究を開始することが決定している。このように本プロジェクトが他の地域へ波及しており、他の地域における骨粗鬆症治療の医薬連携事業と連携し展開する予定である。

謝辞

一連の活動に財政支援を頂いた杉浦地域医療振興財団に深謝いたします。